

解き方

Step1： 未達事項の仕訳を行い、残高試算表の金額に加減します。

このとき、本店・支店・本店から仕入・支店へ売上の各勘定についてはTフォームで集計し、支店と本店、本店から仕入と支店へ売上のそれぞれの残高が一致することを確認します。

Step2： 支店の決算整理事項の仕訳を行い、支店の損益勘定を作成し、支店の純利益を本店の損益勘定に振り替えます。

Step3： 本店の決算整理事項の仕訳を行い、本店の損益勘定を作成します。

Step4： Step1～3の結果を元に本支店合併財務諸表を作成します。

未達事項の整理：

本店に未達：	2. () / ()
	4. () / ()
	5. () / ()
支店に未達：	1. () / ()
	3. () / ()

支店へ売上		本店から仕入	
残高¥()	T/B ¥178,200	T/B ¥176,000	残高¥()
		1. ¥()	
支 店		本 店	
T/B ¥82,800	2. ¥()	3. ¥()	T/B ¥83,800
5. ¥()	4. ¥()		1. ¥()
	残高 ¥()	残高 ¥()	

損益（支店）	
仕 入 ()	売 上 ()
販 売 費 ()	
貸 倒 引 当 金 繰 入 ()	
広 告 宣 伝 費 ()	
一 般 管 理 費 ()	
減 価 償 却 費（建 物）()	
減 価 償 却 費（備 品）()	
本 店(支店純利益) ()	
()	()

支店の純利益の本店損益への振替

支店の仕訳：	(損 益) / (本 店)
本店の仕訳：	(支 店) / (損 益)

本支店合併損益計算書の売上原価は、内部利益と内部取引を除いた金額で計算します。

商品ボックス	
(残高試算表) 繰越商品 →	期首商品棚卸高： (本 店： ¥() 支 店： ¥() 内部利益： △¥() 合 計： ¥()
(残高試算表) 繰延内部利益 →	売上原価： ¥() → (損益計算書) 売上原価
(残高試算表) 仕 入 →	当期商品仕入高： (本 店： ¥() 支 店： ¥() 合 計： ¥()
	期末商品棚卸高： 本 店： ¥() 支 店： ¥() (未達分)： ¥() 内部利益： △¥() 合 計： ¥() → (貸借対照表) 商 品

解き方

Step1: 原料Pと加工費についてのボックス図を(1)、(2)用にそれぞれ作ります。

Step2: Step1に数量データおよび原価データをあてはめて、月末仕掛品原価および完成品原価を求めます。

Step3: 数量が「箱」単位であることに注意して完成品総合原価を数量で割り、完成品単位原価を算出します。

(1)

		原料P・加工費 (個)		
		月初	完成	先入先出法
原料P	()円	150 (90)	2,000	<完成品>
加工費	()円			原料P: ()円+()円-()円=()円
				加工費: ()円+()円-()円=()円
				包装材Q: ()円
				完成品総合原価: ()円
原料P	()円	当月 ()	仕損 100	
加工費	()円	()	月末 200 (40)	<月末仕掛品>
				原料P: $\frac{()円}{()個} \times ()個 = ()円$
				加工費: $\frac{()円}{()個} \times ()個 = ()円$
完成品総合原価()円÷()箱=完成品単位原価()円/箱				

(2)

		原料P・加工費 (個)		
		月初	完成	先入先出法
原料P	()円	150 (90)	2,000	<完成品>
加工費	()円			原料P: ()円+()円-()円=()円
				加工費: ()円+()円-()円=()円
				仕損品評価額: △()円
原料P	()円	当月 ()	仕損 100	包装材Q: ()円
加工費	()円	()	(100)	完成品総合原価: ()円
			月末 200 (40)	<月末仕掛品>
				原料P: $\frac{()円}{()個} \times ()個 = ()円$
				加工費: $\frac{()円}{()個} \times ()個 = ()円$
完成品総合原価()円÷()箱=完成品単位原価()円/箱				

解き方

Step1: まずは「未処理」・「未記帳」の仕訳をします。

Step2: 決算整理事項の仕訳をします。

Step3: Step1、Step2を基に、精算表を完成させます。

6. 売上原価の計算および商品の評価

原価	期末棚卸高 ¥()	
@ ¥()	評価損 ¥()	棚 減
正味売却価額 @ ¥()	B/S商品 ¥()	
	棚数量：()個 ()個 (実地) (帳簿)	

期末棚卸高：@ ¥() × ()個 = ¥()
棚卸減耗損：@ ¥() × {()個 - ()個} = ¥()
商品評価損：{ @ ¥() - @ ¥() } × ()個 = ¥()
B/S商品： ¥() - ¥() - ¥() = ¥()
または、@ ¥() × ()個 = ¥()

()	296,000	()	296,000
()		()	
(棚 卸 減 耗 損)		()	
(商 品 評 価 損)		()	

8. 社債の処理

(1) 償却原価法

$$\text{発行差額} = ¥() \times \frac{① ¥() - ② ¥()}{③ ¥()} = ¥()$$

$$\text{償却原価法による加算額(償却額)} = ¥() \times \frac{() \text{力月}}{() \text{力月}} = ¥()$$

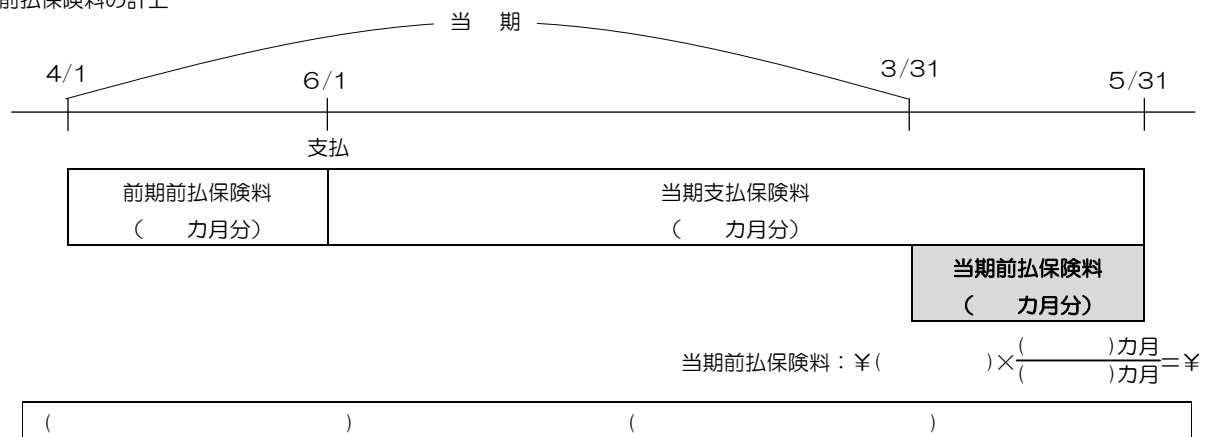
()	()
-----	-----

(2) 未払社債利息の計上



()	()
-----	-----

9. 前払保険料の計上



()	()
-----	-----

解き方

Step1: 本問では月初・月末に仕掛品はないので、当月投入量は6,500個分となります。

Step2: 当月投入量に基づき、当月標準材料消費量と当月標準直接作業時間を求めます。

Step3: Step2で求めた当月標準材料消費量と当月標準直接作業時間に基づき差異分析図を作成し、差異分析をします。

当月標準材料消費量 : 6,500個×()kg/個 = ()kg^{*1}

当月標準直接作業時間 : 6,500個×()h/個 = ()h^{*2}

●直接材料費

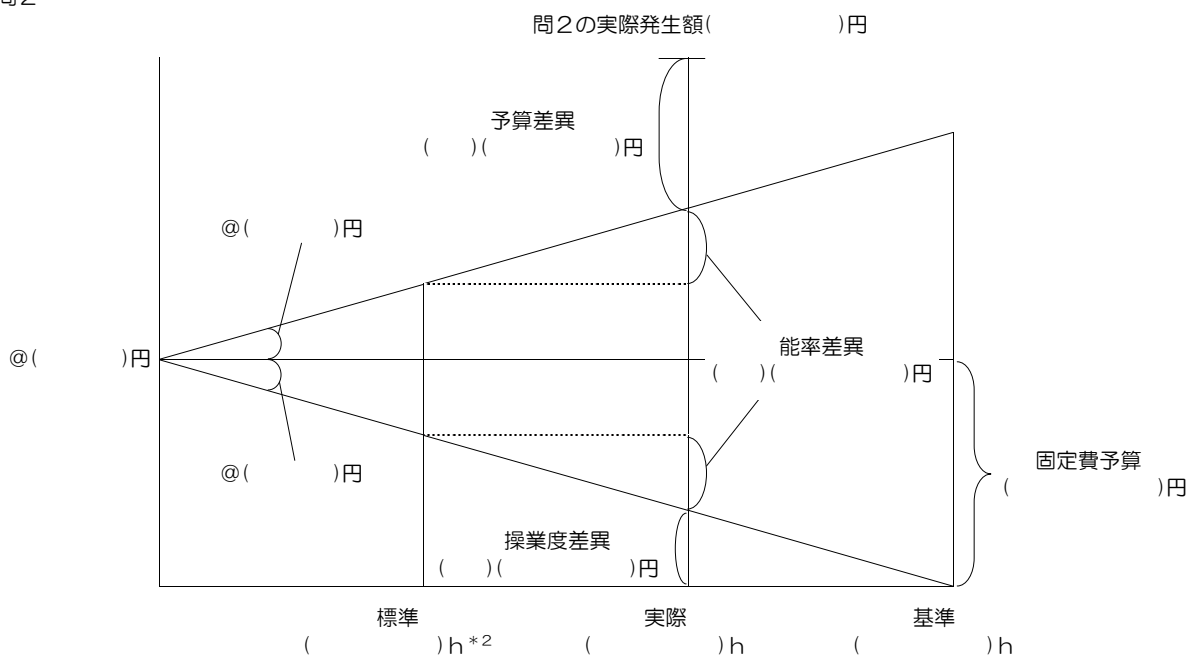
実際@()円	材料価格差異()()円
標準@()円	材料数量差異 ()()円
	標準 ()kg ^{*1} 実際 ()kg

●直接労務費

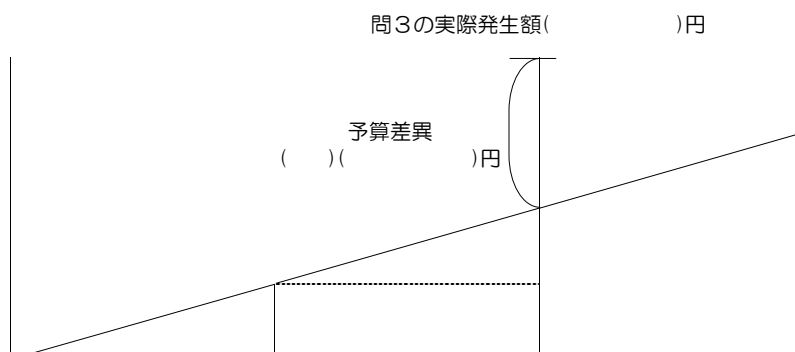
実際@()円	労働賃率差異()()円
標準@()円	労働時間差異 ()()円
	標準 ()h ^{*2} 実際 ()h

●製造間接費

問2



問3



解き方

Step1: まずは「未処理」・「未記帳」の仕訳をします。

Step2: 決算整理事項の仕訳をします。

Step3: Step1、Step2を基に答案用紙に記入します。

Ⅱ-2. 備品の除去時

過年度の	平成22年3月31日: ¥150,000×20%	= ¥()
減価償却計算	平成23年3月31日: {(¥() - ¥()}×20%	= ¥()
	平成24年3月31日: {(¥() - ¥() - ¥()}×20%	= ¥()
	除却資産の減価償却累計額⇒ 計	¥()
当期の減価償却費	平成25年3月31日: {(¥() - ¥()}×20%	= ¥()

Ⅲ-2. 売上原価の計算および商品の評価

原価	期末棚卸高 ¥()
@ ¥()	
B/S商品 ¥()	棚卸減耗損 ¥()
棚数量: ()個 ()個	
(実地)	(帳簿)

Ⅲ-5. 社債に関する処理

(1) 償却原価法(定額法)

$$\text{発行差額: } ¥() \times \frac{① ¥() - ② ¥()}{③ ¥()} = ¥()$$

$$\text{償却原価法による加算額(償却額): } ¥() \times \frac{() \text{力月}}{() \text{力月}} = ¥()$$

(2) 社債発行費償却

決算整理直前における社債発行費勘定の残高を、残り()力月にわたり月割り償却

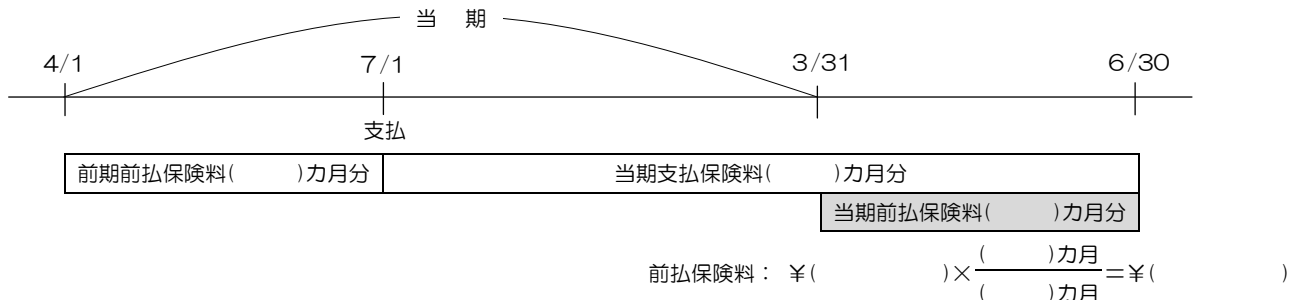
$$\text{社債発行費償却: } ¥() \times \frac{() \text{力月}}{() \text{力月}} = ¥()$$

Ⅲ-6. のれんの償却

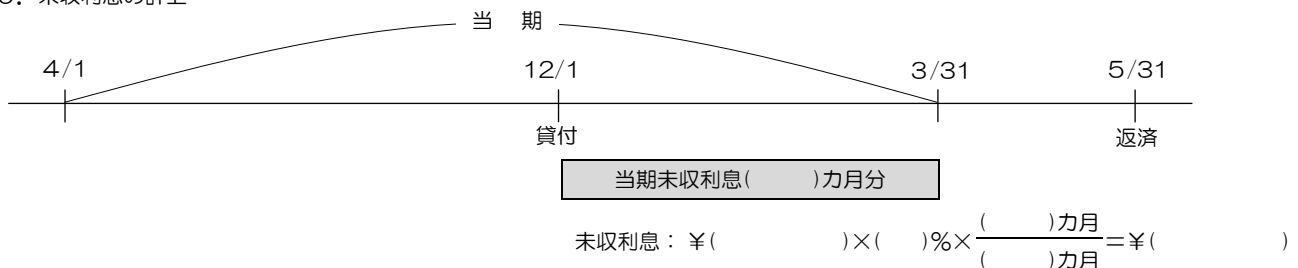
決算整理直前におけるのれん勘定の残高を、残り()力月にわたり償却

$$\text{のれん償却額: } ¥() \times \frac{() \text{力月}}{() \text{力月}} = ¥()$$

Ⅲ-7. 前払保険料の計上



Ⅲ-9. 未収利息の計上



解き方

- Step1: 等価係数を考慮する前の完成品総合原価を算定します。加工費について予定配賦率を用いている点に注意します。
 Step2: 各完成量に等価係数を掛けた積数の比で各等級製品に按分します。
 Step3: Step1、Step2を基に答案用紙に記入します。

完成品総合原価の計算（先入先出法）

原材料費						
() 円	<table border="1"> <tr> <td>月初 () 個</td> <td>完成 () 個</td> </tr> <tr> <td>当月投入 () 個</td> <td>月末 () 個</td> </tr> </table>	月初 () 個	完成 () 個	当月投入 () 個	月末 () 個	完成品: () 円 + () 円 = () 円 月末仕掛品: $\frac{() \text{円}}{() \text{個}} \times () \text{個} = () \text{円}$
月初 () 個	完成 () 個					
当月投入 () 個	月末 () 個					
() 円						

加工費						
() 円	<table border="1"> <tr> <td>月初 () 個</td> <td>完成 () 個</td> </tr> <tr> <td>当月投入 () 個</td> <td>月末 () 個</td> </tr> </table>	月初 () 個	完成 () 個	当月投入 () 個	月末 () 個	完成品: () 円 + () 円 = () 円 月末仕掛品: $\frac{() \text{円}}{() \text{個}} \times () \text{個} = () \text{円}$
月初 () 個	完成 () 個					
当月投入 () 個	月末 () 個					
() 円						

() 円 - 加工費配賦差異 () 円 = () 円

月末仕掛品: () 円 + () 円 = () 円

完成品総合原価: () 円 + () 円 = () 円

完成品総合原価の各等級製品への按分

等価係数を使って積数を算定し、完成品総合原価を積数の比で各等級製品に按分します。

製品A: () 個 × 1 = ()	製品A: $\frac{() \text{円}}{()} \times () = () \text{円}$
製品B: () 個 × 0.8 = ()	製品B: $\frac{() \text{円}}{()} \times () = () \text{円}$
計 ()	

各等級製品の完成品単位原価を計算します。

製品A: () 円 ÷ () 個 = () 円/個

製品B: () 円 ÷ () 個 = () 円/個

月末製品棚卸高の計算（先入先出法）

月末製品Aの計算

製品A						
？ 円	<table border="1"> <tr> <td>月初 () 個</td> <td>販売 () 個</td> </tr> <tr> <td>完成 () 個</td> <td>月末 () 個</td> </tr> </table>	月初 () 個	販売 () 個	完成 () 個	月末 () 個	月末製品: $\frac{() \text{円}}{() \text{個}} \times () \text{個} = () \text{円}$
月初 () 個	販売 () 個					
完成 () 個	月末 () 個					
() 円						

月末製品Bの計算

製品B						
？ 円	<table border="1"> <tr> <td>月初 () 個</td> <td>販売 () 個</td> </tr> <tr> <td>完成 () 個</td> <td>月末 () 個</td> </tr> </table>	月初 () 個	販売 () 個	完成 () 個	月末 () 個	月末製品: $\frac{() \text{円}}{() \text{個}} \times () \text{個} = () \text{円}$
月初 () 個	販売 () 個					
完成 () 個	月末 () 個					
() 円						

損益計算書の月末製品棚卸高

() 円 + () 円 = () 円

製品A 製品B

損益計算書上のその他の項目

売上高: () 円/個 × () 個 + () 円/個 × () 個 = () 円

製品A 製品B

当月製品製造原価: () 円 + () 円 = () 円

製品A 製品B

加工費配賦差異: () 円 → 売上原価へ

解き方

Step1: 決算整理事項の仕訳を行い、その金額を決算整理前残高試算表の金額に加減します。

決算整理前残高試算表にない項目は、直接答案用紙に記入します。

Step2: Step1で変動がなかった項目について、損益勘定や繰越試算表に移記します。

II-1. 剰余金の処分および仮払金の処理

平成25年3月28日の株主総会決議時に行うべきであった仕訳

()	/	()
()	/	()
()	/	()

配当金の支払時の仕訳

(仮 払 金)	/	(現 金 預 金)
-----------	---	-------------

上記仮払金(配当金)に関する仕訳

()	/	()
-----	---	-----

II-3. 試用品の販売

()	/	()
()	/	()

II-4. 貸倒引当金の設定

貸倒引当金: { ¥() + ¥() + ¥() } × 2% = ¥()

受取手形

売掛金

貸倒引当金繰入額: ¥() - ¥() = ¥()

II-5. 売上原価の計算および商品の評価

原価	期末棚卸高 ¥()
@ ¥()	評価損 → 売上原価に算入 ¥()
正味売却価額 @ ¥()	B/S商品 ¥()
	棚減 ¥()
棚数量: () 個 () 個 (実地) (帳簿)	

II-7. 満期保有目的債券に関する処理

額面金額と取得価額との差額: ¥() × $\frac{① ¥() - ② ¥()}{③ ¥()}$ = ¥()

償却原価法による加算額(償却額): ¥() × $\frac{() \text{力月}}{() \text{力月}}$ = ¥()

II-8. 備品の減価償却計算

過年度の 平成23年12月31日: ¥() × ()% × $\frac{() \text{力月}}{() \text{力月}}$ = ¥()

減価償却計算 平成24年12月31日: {(¥() - ¥() } × ()% = ¥()

決算整理前残高試算表の備品減価償却累計額 ⇒ 計 = ¥()

当期の減価償却費 平成25年12月31日: {(¥() - ¥() } × ()% = ¥()

II-9. 株式交付費の償却

H24 5/1 () 力月 H25 1/1 () 力月 H25 12/31 () 力月 H27 4/30 償却終了

支出 当期首 当期末

¥12,000 ÷ () 力月 = ① ¥() → ② ¥() × 12 力月 = ¥()

第4問

解き方

Step1: [資料] に基づいて、各消費額を整理します。

Step2: Step1 を集計し、解答用紙の勘定に記入します。

1.素 材			
期首	90	直接 ()	→ 直材
()		間接 ()	→ 間材
()		減耗* ()	} 帳簿()
		期末 ()	

2.その他間材	
	間接 () → 間材

経 費		
10. 外注 ()	直接 ()	→ 直経
1. 減耗* ()	間接 ()	→ 間経
6. ()		
7. ()		
8. ()		
11. ()		
12. ()		
13. ()		

2.直接工賃金			
支給	1,440	首 未払 ()	→ 直労
		直接 ()	
賃 差異 ()		間接 ()	→ 間労
未 未払 ()		手待ち ()	

4.その他間労	
	間接 () → 間労

原価差異(製間)	
9.操業度 ()	5.予算 ()
	()